

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2024 年 10 月号」

平和を実現する人びとは幸いである。その人たちは、神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5章9節)

私は、山川先生のお話を聞いて、核兵器は使ってはいけない。0にしなければならぬと分かりました。当時、「戦争をやめたい。はじめないでくれ。」と口に出すことが、国からだめと言われていたことを知って、昔の国の考え方は、すごくおかしいなと思いました。核兵器はもう二度と使ってはいけないと改めて感じました。

ぼくは、山川先生の話聞いて、争いで解決するのではなく、会話で解決する世界であるようにしたいです。そして、話を聞いて想像するたびに、心はずきずき痛み、悲しみと恐怖に支配されました。戦争中と今では学校の行事や日常とでは常識が違うことが分かりました。この先、世界が平和であり、過ちが二度と繰り返されないことを願って生活します。

5年生のヒストリーツアーが、9月19日・20日に行われました。熱中症特別警戒アラートは出まらなかったですが、連日30℃を超える猛暑の中でしたので、フィールドワークの内容を大きく削ることになりました。予定変更となったことは残念でしたが、5年生の事前学習がしっかりなされていたことで、講師の先生のお話の時でもフィールドワークでも、皆真剣に話を聴き、深く学ぶ時を持つことができていたように思います。

今回講師でお話をしてくださった山川剛先生は、いつもは6年生や中高生にお話をされているのですが、5年生の子どもたちに時間を延長して1時間30分ほど丁寧に分かりやすく話をしてくださいました。子どもたちの真剣に学ぼうとする姿に応えてくださったのだと思います。

例年、長崎の原爆遺構巡りのフィールドワークでは、原爆を体験された方々からお話を伺いながら学んでいました。その際、「子どもたちにもですが、まず先生方がこの仕事を引き継いで次の世代に伝えてくださいね。」と言われていました。そこで、教師自身がまず改めて学びなおそうということで、6月の休日に参加可能な教職員で長崎を訪れ、実際に遺構巡りの場所を回りながら、フィールドワークの講師の先生から「一つひとつの遺構の見方」「遺構から見えてくるもの」「子どもたちの理解を深めるための手立て」などを教えていただきました。今回講師としてお話してくださった山川先生にも、教師に向けてのお話しをしていただきました。お話の最後に「教えるとは希望を語ること」と言われたことを心に刻み、平和教育を確かなものにしていきたいと思います。

今年のフィールドワークは、引率教員がそれぞれの場所で話をしています。ただ、今回は全コースを回れなかったため、夜の振り返りの際に、それぞれが訪れた場所での学びを報告し合うことになりました。ホテルに向かうバスの中で、一本柱の鳥居に行けなかった子どもたちに「一本柱の鳥居が見えますよ。」とバスガイドさんが教えてくださったときに、「遠くから見ただけでは、大切なことは分からないんだよね。」とつぶやいた女の子がいたそうです。一本柱の鳥居は、平和公園から少し離れているので、通常バスの中から遠くに見るだけになることが多いのですが、石柱の歪みや熱線で溶けた文字の後など、実際の場に行き、残されたものからどのようなことが分かるのか体験し学んだからこそつぶやきだったと思います。

5年生は、学習発表会で報告をするということです。学校中で平和を願い、平和な世界を創り出す働きをするための学びの場となることでしょう。

(文責 黒木佐幸)